

部署紹介：ストレスケア・思春期病棟について

私たちは、学校や会社など社会の中で、人間関係やプレッシャーなどによる様々なストレスに囲まれています。ストレスによって心身が不調な時には、プライバシーを守り環境を変えることも大切な治療の基本です。

ストレスケア病棟という包容力のある安心安全な環境で心と体が解きほぐされ、十分な睡眠と休息のあとにエネルギーが充電され自らの復元力によって自信を回復していく過程を私たちはお手伝いします。



【個室Bタイプ】 1500円/日 TV・冷蔵庫付



当院は北海道で唯一の「日本ストレスケア病棟研究会」会員です

ストレスケア・思春期病棟は、プライバシーに配慮し人目を気にせずゆったりと過ごすことができる個室中心の病棟で、神経症やうつ病などのストレス関連疾患の方に入院して頂く開放病棟です。なおかつ、入院治療を受けながら通学・通勤することが可能な病棟となります。

広々とした癒しの空間とリラックスできる環境の中で静養して頂きながら、精神療法・薬物療法・作業療法・認知行動療法などの集中的な治療を行います。

ストレスに対処していくことはその人らしい心豊かな生活を送っていく上で重要な課題と言えます。ストレスケア病棟では、個々の患者さんの能力を高める治療プログラムを積極的に取り入れ、入院から退院に至るまで病状に合った様々な治療を行います。

病棟コンシェルジュ

当病棟には、患者さんが安心して入院生活を送れるよう「病棟コンシェルジュ」がいます。主な仕事は、快適な療養空間の演出などアメニティー面での充実、入院生活に関する説明・案内、忘れ物の管理、医師や看護師・心理士との橋渡しなどのサポートを行います。



学習支援



10代の患者さんにとって、入院して不安なのは治療だけではなく、勉強の遅れや学習の空白期間による不安があると思います。そのような不安を抱えている患者さんに向けて家庭教師による勉強のサポート、朝読書、思春期グループ(アネモネ)などを行っています。



五稜会病院は エコ活動に取り組んでいます

五稜会病院は平成19年から『さっぽろエコメンバー』の一員として、エコ活動に自主的に取り組んでいます。取り組み内容としては、時間帯ごとの照明管理、飲料水として地下水の利用、適応なごみの分別、使用できる文房具の再利用、CO2削減に効果的なバイオディーゼル燃料(食用廃油)の使用等を行ってきました。

そして、一昨年から着工している新棟建設時にもLED照明・人感照明の使用、節水トイレ、エアタオルの設置といった、エコに配慮した設備作りとなっています。

さらに、昨年11月よりエコプロジェクトを発足し、よりスタッフにエコ活動を意識してもらうように月間強化目標の設定や、館内温度を20~23℃の適正温度(環境省推奨温度)に保

つ等の新たな取り組みもスタートしています。

限りある資源をみんなで共有していくために、病院のみならず、みなさんもエコ対策へのご協力をお願いいたします。



院内の照明は、時間帯によってどの明かりを使うか判り易く表示してあります

『発達障害の支援モデルを考える～精神科病院や矯正施設との連携』にシンポジストとして森PSWが参加しました。

去る平成26年12月13日、札幌市自閉症発達障害支援センター主催のシンポジウムが開催され、「精神科病院の立場から」というテーマで登壇させていただきました。

近年、精神科病院からの退院時支援や地域定着支援の重要性が高まっている状況の中、矯正機関・精神科リハビリテーション機関・精神科病院の現状と課題を共有することができ、どのような知識やフレームワークを持ち・どのようなまなざしで発達障害を抱える方を支援することが大切なのかを再確認することができました。

前半はこころとそだちのクリニックむすびめ田中康雄先生の基調講演、後半は矯正機関・精神科リハビリテーション実施機関・精神科の現状をシンポジウム形式で、当院からは精神科における発達障害診断目的での来院者の現状や、思春期ケースへの支援を通じて支援における工夫点や課題について発表させていただきました。

発達障害を抱える方の支援は一機関だけで完結するものではありません。その方の能力や取り巻く心理社会的な状況を的確に捉え、ニーズに合わせた柔軟な対応の積み重ねが、発達障害を抱える方のサポートに繋がるため、このシンポジウムでの学びが多くの機関や支援者が当事者に届く支援を行える連携の第1歩となればと願っています。

